

## 数え100歳 百寿のお祝い

### 阿部ちきおさん

満99歳を迎えた阿部ちきおさん（田の浦）に、3月10日（水）、町から百寿のお祝い金などが送られました。

ちきおさんは、4人兄妹の長女として田の浦で生まれ育ち、9人の子供も、29人の孫、56人のひ孫、7人のやしやごに恵まれました。当日は、県内外に住んでいる家族28人がお祝いに駆けつけ、「昔からとてもやさしく、本当に親らしい親でした」と口をそろえて話し、涙を流す方もいらっしゃいました。3年ほど前に腰を痛めてからは、車椅子での生活を送っていますが、とても健康で、町長からお祝いを渡されると「どうもありがとうございます」とはっきりとした口調でお礼を言いました。これからも、ますます元気にお過ごしください。



### 千葉ちとせさん

満99歳を迎えた千葉ちとせさん（館浜）に、3月15日（月）、町から百寿のお祝い金などが送られました。

ちとせさんは、7人兄妹の次女として泊浜で生まれ育ち、5人の子供も、8人の孫、16人のひ孫、1人のやしやごに恵まれました。昭和20年に夫の幸之進さんが戦争で亡くなられてからは、女手ひとつで、農漁業をしながら子どもを育てました。昔から体が丈夫で、病気をしたことがなく、今でも家に来るお客さんと話をするのを楽しみに元気に暮らしています。健康の秘訣は、好き嫌いをしないで何でも食べることだそうです。ツヤのあるきれいな肌を今でも維持しています。これからも、ますます元気にお過ごしください。



## 大津波警報発令 不安と緊張が町を包み込む

志津川小学校の高台から、不安げに町を見つめる人たち



【チリ中部地震津波による水産関係被害額】 ※3月15日現在  
 養殖施設被害 戸倉地区：57,235千円、志津川地区：26,534千円  
 養殖物の被害 戸倉地区：162,985千円、志津川地区：70,319千円  
 その他の被害 戸倉地区：391千円、志津川地区：1,495千円  
 ※歌津地区では、大きな被害はありませんでした。

2月28日（日）午前9時33分、気象庁から宮城県沿岸に大津波警報が発表され、不安と緊張が町を包み込みました。

この警報は、現地時間の27日（土）に、南米チリで起きたマグニチュード8.8の大地震が原因で、50年前に当町を襲ったチリ地震津波と同じ状況です。予想される津波の高さは、高いところで3メートル以上と発表され、町では、津波災害対策本部を設置し防災無線放送で町民の皆さんに避難指示を出しました。

当町では、最大で130センチの津波を観測し養殖漁業施設などが大きな被害を受け、その被害額は3億円を超えるものとなりました。

被災された皆さんに、心よりお見舞い申し上げます。

## 1460日の旅立ち

3月4日（木）、戸倉小学校5年生の皆さんが、サケの稚魚約500匹を水戸辺川に放流しました。

この稚魚は、昨年の11月に自分たちで採卵した卵からふ化したもので、学校敷地内に設置した専用の水槽に入れ、水温のチェックやエサやりなど、子どもたちが毎日愛情を込めて育てたものです。小さいカップに取り分けられた稚魚たちを静かに川の中へ入れてやると、元気に泳いでいく稚魚たちの姿を見て、子どもたちの顔からは自然と笑顔がこぼれていました。

阿部穂菜美さん（長清水）は、「たくさんの稚魚が元気に育って良かったです。この川に戻ってきたら、その子どもたちをまた育ててみたいです」と話してくれました。

その後、水戸辺川組合の皆さんによって約25万匹の稚魚が放流されました。この稚魚たちは1460日の年月を経て、ふるさとに帰ってきます。



## 波伝谷獅子舞の起源として 300年以上続く伝統行事

3月14日（日）、波伝谷地区の伝統行事「春祈禱」が行われました。春祈禱は、集落の悪疫を追い払い、めでたい正月を迎える行事として、本来、旧暦の2月15日に行われるものですが、現在は、3月の第2日曜日に行われています。

朝早くから、子どもたちが演奏する笛や太鼓に合わせて、波伝谷地区の若い衆による獅子舞の一行が各家庭を練り歩きました。家庭では必ず豆腐を用意しており、家の中の悪疫を豆腐に封じ込めます。すべての家庭を回り終えた夕方5時30分頃、最後に波伝谷漁港で、今日1日溜め込んだ悪気を獅子の口から吐き出し、榊の木の枝に宿らせて海に流しました。

各家庭や休み場では、たくさんのお菓子や料理が振舞われ、獅子の周りには子どもたちが列をなして並び、1日中明るい声が絶えませんでした。



## 志中生の皆さん、ありがとうございました！

2月18日（木）、志津川中学校生徒会執行部の皆さんが町長室を訪れ、ハイチ大地震の被災者に対する義援金、68,497円を町長に手渡しました。

この義援金は、1月24日（日）に行われた「寒鰯まつり」の会場で、志津川中学校2年生が出演した「ティーンズマーケット事業」の収益金と学校で集めた募金を合わせたものです。

ティーンズマーケット事業収益金の使い道については、事前にアンケート調査を実施したところ、回答のほとんどが「ハイチの被災者に役立ててほしい」というものだったことから、義援金とすることを決定。ティーンズマーケットでは、ハイチの皆さんのために頑張って販売したそうです。義援金は、翌日、日本赤十字社宮城県支部に送られ、今後、ハイチ被災者の皆さんのために役立てられます。

